





會社設立ノ主義

第一條

談會社設立ノ主義ハ我大日本全國人民一般ノ幸福ヲ遠永ニ期圖シ華士族農工商ノ資産ヲ保全ス者トス

第二條

輸出入平均ヲ失ヒ金銀濫出ノ弊害ハ全國人民其不幸ヲ蒙ラサル者ナシ此弊源ヲ絶タサレバ我人民ハ永世富饒ノ實ヲ占ムルヲ難シ近來ノ景況一年金銀ノ濫出スル大約一千萬圓トス今ニシテ之ヲ救ハザル我國ノ金銀ハ地ヲ拂フベシ家計ヲ保全シ資産ヲ安着セシメント欲ト雖氏固ヨリ得ベカラズ

天正十一年四月



第三條

歐米諸洲今富强ト稱揚セラル、國ト雖モ昔時ハ貧弱ニ苦シマザル者、槩子稀ナリ、然レ、蓋洲ノ人民、愛國ノ氣カラ更張シ奮勵勉強シテ遂ニ其富ヲ致スニ非ラスヤ我同胞モ精神ヲ茲ニ注キ以テ大ニ興致スル一此アルハ何ソ、歐米ノ富强ヲ羨シニ足ラン

第四條

同胞茲ニ注意ヲ缺キ因循姑息以テ各自唯孤立策ヲ是レ求メ全國ノ貧弱ニ迫リ縱橫外侮ヲ受ク、雖レ庫底多少ノ金銀ヲ恃ミ以テ國害ヲ顧ミザル者ハ忠愛社會ノ罪メ、謂ハザラ得

第五條

凡ソ事ニ救フベキアリ救フベカラザルアリ今日我國ノ經濟ハ藥スベカラザルノ疾病ト異ナリ療治其宜ヲ得バ必ラ救フベキ者ナリ之ヲ救フト救ワザルハ唯我同胞ノ氣カノ有無ニ在ルノミ全國ノ氣カラ以テ全國ノ弊害ヲ除ク、何ノ難キコカ之レ有ン

第六條

我國統計學子未ク大ニ用ケル故ニ全國ノ財産其幾許ナルヲ詳ニスルニ由ナレト雖モ人民ノ私有ニ屬スル者大約三十億以上ナルベシ、地券ノ額面是レ十四五億、家屋山林船舶器械畜類鐘物等ノ價ノミヲ云フ、此百分之即チ三千萬圓以上ノ資本ヲ併合シテ以テ一大會社ヲ創立シ富國ノ基礎ヲ立ント欲ス



華族諸公の御協議案

某諸君ニ向テ熟議セラルベカラハ一大要件アリ何ヤ目  
下我國ノ財務殆ニ困弊ヲ告ケテ正々銀日ニ騰貴シ  
隨テ影響ヲ物價ニ及シ米穀百貨皆ナ高貴セラレテ  
獨公債證書ト帛幣ニ至テハ比較シテ低劣ニ就  
為ノニ政府ハ百方匡救ノ策ヲ求メラレ保護ノ行  
ラカル所無シト雖ハ維新以來臨時費額ヲ支出ス  
ル殆ニト虚歳トク不幸ニシテ官幣未タ餘裕アルニ至  
ス方今忽チ匡救ノ策保ヲ獲テ術其實効ヲ全國  
ニ及ス又益シ易クノ業ニ非ザルハ然リ而シテ全國ノ經  
濟日一日ヨリ迫ルモノ、如シ是時ニカテ匡救ノ策保  
ヲ護ノ術唯之ヲ政府ニ委ニ座視傍觀シテ可ナル者



ト為ル乎決シテ然ルニ非ルナリ我全國經濟ノ優饒ヲ  
ラサル所以ノモノハ他ナシ輸出平均ヲ失シ入ル物多クシ  
テ出ス物寡シ其不足ハ我正貨即チ金銀ヲ以テ之ヲ  
填ム之ニ填ムルノ額年一年ヨリ増加ス誠ニ歎セザルベ  
クニヤ今ニシテ此大害ヲ匡救スルニ非レハ萬民ノ家産  
ヲ保全安着セシムルニ由ナシ譬言ヘバ今茲ニ拾萬圓ノ富  
家アラニ諷拾萬圓ハ帛幣ト公債証書ナリ而テ正  
貨騰貴シ公債証書低落ノ不幸ニ遭遇スルニ至ラハ  
大約暗ニ其半額以上ヲ減耗ス之ヲ家産ノ保全  
安着ト謂テ可ナル乎其辨知者ヲ待タズレテ昭々々  
リ又益シ輸出入不平均ノ害、全國一般上  
皇室ヨリ下細民ニ至ルマテ冥々中ニ皆ナ多ク少ク患毒

ヲ蒙ル實ニ切齒歎息ノ至リニ堪ヘサルナリ夫レ如此不  
幸ヲ全國ニ蒙ル官帑漸ク乏少ラ告ケ民産頓ニ耗  
滅ニ歸ス今ニシテ之ヲ匡救スルニ非レハ禍患愈加ハリ終  
ニ名状スベカラザル慘状ヲ招クモ亦タ誠ニ測ルベカラズ其  
憂念一クシテ茲ニ及フ毎トニ未タ嘗テ慨歎セズハア  
ス今諸君ト勲議シ匡救ノ策ヲ講セント欲ス諸君幸  
ニ其ノ拙陋ヲ嫌ハズ姑ク精神ヲ留メ左件ノ得失  
ヲ熟慮アラニト其ノ至願ナリ  
夫レ諸君ハ天下ノ貴族ニシテ上  
皇室ヲ奉戴シ下萬民ノ龜鑑トナルベキ位置ニ居リ家  
産モ亦シ之ヲ士民ニ比スレバ概シテ富饒ト云ワサルヘカラス  
故ニ諸君大ニ天下ノ士民ニ率先シテ此困弊ヲ匡



救スルノ首唱者クランニ一切ニ希望スル一所ナリ其方法、  
如キニ至テハ拙陋ノ得テ盡ス一所ニ非ラスト雖氏諸君  
ハ天下ノ士民其資産アル者ト協同聯合シ一大會  
社ヲ創立シ其資本決シテ三千萬圓ヲ下ルベカラズ  
其營業ハ必ラス輸出入ノ平均ヲ得セシムル事業ヲ興  
發スベシ而シテ年ヲ積ミ効ヲ累ルニ至テハ當ニ平均ヲ  
得セシムルノミナラス誓言テ輸出ヲシテ輸入ニ超ヘシメ日下ノ  
勢ニ及シテ外國ノ金銀ヲ我ニ輸入セシムルヲ期スベシ  
今日ニシテ優游無敵以テ因循経過スルキハ公ケシテ  
國家ニ盡スノ義務ヲ缺キ私ニシテハ家産保全道  
ヲ失フ公私兩ナスヲ破ル他日得テ遽ニ萬悔スト雖氏  
及フベカラザルナリ想フニ今ヤ天下ノ真カ農富商ト

雖ハ前途ヲ深慮スルキハ家計保全ナラズ資産ハ女  
着ナラズ皆ナ其目的ニ彷徨スルベシ故ニ人々相争テ  
幣幣ヲ以テ正貨ニ換ヘント欲シ徒ラニ其價格ヲ競  
ヒ追マレケルモノ居多ナルヤシ是レ惡キハキニ似タリト雖モ  
前途ヲ憂フルノ念精キニ至テハ遂ニ此點ニ傾ク亦又  
一概ニ尤ムベカラズ然レモ此等ノ處置ハ全國風ヲ為スニ  
至テハ正貨ハ富家ノ庫底ニ藏レ世上ノ公益ニ供セズ  
今後政府ニ於テ無數ノ正貨ヲ鑄造スルモ一方ニ外  
國ニ濫出シ一方ニ富家ノ庫中ニ匿ル隨テ造リ隨  
テ乏キニ至リ幣幣愈低落スルハ理ノ見難キモノニ非  
サルナリ而シテ其ノ弊ニ至ル弊源ヲ推スニ其一方ハ輸  
出入不平均ノ責ニシテ他ノ一方ハ各自孤立ニ經濟



ヲ為シテ協同以其弊源ヲ救フノ点ニ意ヲ注アサ  
ルノ四非ナリ仮令ハ金貨ヲ庫中ニ沈メ時價ノ進  
ヲ以テ喜ビ我家産増殖セリト自ラ誇ルト雖モ是  
レ全ク一家ノ經濟ニシテ畢竟公衆ノ困難ニ迫ル  
モ此流ノ人ヨリ及スノ弊害タルヲ知ル中ハ實ニ為スベ  
カラザルノ孤立策ニ歸スルノミ諸君深ク今日ノ形勢  
ヲ察シ將來ノ前途ヲ定メ首唱率先シ以テ大ニ  
天下ノ公益ヲ開キ全國ノ危急ヲ救ヒ抑ヒ日本  
華族ハ無気力ニシテ國家ニ盡スノ義務ヲ知ラズ無  
知識ニシテ自家ノ資産ヲ保全スルノ事理ヲ知ラズ外  
人ノ嗤笑ヲ受クルニ及シテ他日外人ヲシテ日本ノ經  
濟ハ華族首唱ト为リ全國ノ士民協同シテ遂ニ紙

幣ノ低落ヲ防キ土地ヲ闢キ物産ヲ興シ輸出ヲ盛  
ニシテ自今ノ好結果ニ至リ是レ一時ノ困弊ヲ激シ  
テ大ニ富國基ヲ開ケリト贊揚セラルニ至ラバ實ニ愉  
快ヲラスヤ明治昭代ノ華族クル諸君ハ必愛ニ感動  
スルコトアルハ其ノ既ニ信憑スル一所ナリ因テ別冊方法  
ノ拙案ヲ草シ以テ諸君ニ呈ス諸君幸ニ速ニ決ス  
ル一所アラニテラ期望ス



會社定款ノ要領

第一款

該社 會社ト稱シ有限合本ノ組織ニシテ資本金ハ三千萬以上ヲ全國ニ募集シ營業ハ二十五年ヲ以テ一期シ株券ハ一株ヲ貳拾五圓ト定メ總數ハ百二十五株トシ外國人ヲ除クノ外何人ヲ論セズ皆テ株主タルヲ得ベシ而シテ此株券ハ該社ノ承認ヲ經テ賣買讓與スル自由タルベシ

第二款

該社ノ本局ヲ東京ニ置キ支局ハ漸次ニ全國ノ都會ニ置キ營業ノ景況ヲ詳ニシテ遂ニ外國各地ニ設クル者トス



但魯領浦潮港ニヨリライム港ハ急ニ開高ヲ要スベシ

第三款

當社ノ營業ハ全國ノ富饒ヲ資クル事業ハ皆是  
事ニスルヲ旨トスト雖氏當初ヨリ浩翰ニ流レ計昇  
紊乱スルハ之ヲ永續スルニ由ナレ故ニ漸次事業ヲ  
擴張スルヲ目途トシ先ツ其資本ヲ失ワザルヲ第  
一要領トシ其資本ニ對シテ必ス年一割ノ利益ヲ  
得ルヲ第二要領トスベシ

第四款

故ニ第三款ノ要旨ニ基キ今其大略ノ豫算ヲ為  
ス左ノ如シ

仮令ハ

金三千萬圓

合本資金

此運用利子一々年

金三百萬圓

第五款

金三千萬圓ヲ運用スルハ勉メテ確實ニシテ外國輸  
出ヲ資ケ外國輸入ヲ防クモノニ於テ專ラ流通ヲ為  
スベシ

仮令ハ

- 一外國ノ需用ニ應シ内國品ヲ販賣スル事
- 一内國人ヨリ外國ニ輸出品ヲ荷為換之事
- 一外國輸出ヲ増進シ又ハ其輸入ヲ防クキ内國ノ事  
業ニ資ケル事



但抵當ヲ確實ニスベシ

一右同断ノ會社ノ株主トナル事

但創業會社ノ株主タルハ謝絶スベシ經驗アル會社ニ限ルベシ

一政府ノ保証アル外國輸出入ニ關スル事業ニ貸金シ又

ハ其會社ノ株主トナル事

一民立ニシテ貸錢ヲ取立ツヘキ港灣ノ棧橋又ハ疎水開鑿等其確實ナル者ニ限り貸金又ハ株主

トナル事

一運用滞滯スルニ際シテハ政府ノ公債証券ヲ買收シ其價格ヲ維持スル事

右七点ノ事業ハ皆其純益五年一割以上アル者ニ

限ルベシ

第六款

仮令ハ次資本金三千萬圓ノ總益三百萬圓ノ仕拂ハ左ノ如シ

一金三百萬圓 仕拂内譯ノ概算

一金百五十萬圓

是ハ資本金三千萬圓年五未マ利子總株主ニ配當スベシ

一金六十萬圓

是ハ内國鐵道開線費ニ充ツルモノトス一里八萬圓ノ割ニシテ一ヶ年八里トス貳拾五年ニシテ貳百里トス遂道大橋梁ハ他日ニ讓ル見込



一金貳拾六萬圓

是ハ北海道開墾ヲ第一トシ其他各所ノ開墾用  
并牧畜資金農具改良器械所入費等ニ充  
テ要スルニ開墾地ハ貳拾五年ニシテ三十萬町步  
得ルヲ期ス見込ナリ一及ノ開墾費大約金貳  
圓ト仮定ス此三十萬町ヲ貳拾五年ノ後惣株  
主ニ配當スルハ株金百圓ニ付壹町ニ當ル

一金拾萬圓

是ハ工部省ノ試験アル鑛山資金ニ充ツ

一金拾萬圓

是ハ並業各種外國輸出入之平均ヲ助ケル事業  
中確實者ニ充ツ

一金貳拾萬圓

是ハ社貸月給旅費諸入用并創業費ノ年  
譜拂且繰上ケ金ノ利子等ニ當ツ

一金貳拾萬圓

是ハ別途積立金トス支店開設入用并不時損  
失償ヒ等ニ充ツ

第七款

第六款ノ豫算ハ資本金三千萬圓ノ年一割ヲ以テ  
仮定ス幸ニシテ一割以上ナルハ其餘贏ハ淨テ積立  
金ニ算入スベシ倘レ一割ニ充タサルハ其割合ヲ以テ各  
項ノ支出ヲ減縮スベシ然レモ株主配當金ハ年五分ヨリ  
減少スルヲ無キ者トシ他ノ支出金額中ニ於テ便宜



減少スル者トス

第八款

營業費貳拾五年ヲ経テ滿期ニ至ルキハ一旦其資本  
金ト積立金ハ株券ニ照シ悉皆株主一同ニ返戻ス  
ベシ而シテ高麗ス所ノ耕地錢道鑛山其他ノ社有品  
ハ永世其時株券所有者ノ協有物ニシテ年々  
其純益ヲ配當スル者トス故ニ旧株券ハ當初資  
本金ニ引換、返戻スト雖氏更ニ永世協同會社  
ヲ接續シテ旧株券高ニ應シ新規ニ株券ヲ發行シ  
テ授與スルモノトス

第九款

錢道開墾採鑛其他ノ公益事業ニ充ツル資本金ハ  
貳拾五年間皆テ費却シテ該事業ヨリ生スル純益ヲ算  
入セザルモノ、如シ然ハ實際ハ決シテ然ラズ錢道ハ錢  
道開墾ハ開墾各其區堺ヲ詳明シ其損益ヲ  
悉ニ悉ニスルハ固ヨリ論ナク逐年該事業上ニ生スル收  
入金ハ之ヲ資本本金三千萬圓ニ加算スベシ之ヲ加  
算スルハ年一割ノ益金モ亦タ三百萬圓ニ止ラズ  
隨テ該益金中ヨリ株主ニ配當スル金額增加ス  
ルニナラス此金莫クテ該事業ノ資本モ自然タ多キ  
ヲ加テ漸次盛大ヲ期スルニ足ルベシ

第十款

株主ノ権限株券ノ雛形會議ノ体裁社員ノ職  
制事業ノ章程役員ノ撰舉計算ノ方法社



中ノ制禁其他百般ノ事項ハ定款ヲ制定スル  
ノ日ニ於テ詳悉スルモ今茲ニ唯其要領ヲ示スノ  
ミ

### 秋夜孤言

近時我國ノ經濟日ニ困弊ニ迫ルヲ以テ憂慮深思各自其  
議ヲ致ス固ヨリ一ニシテ足ラス然レ其最モ論鋒ノ社會ニ  
振フモノ五アリ而シテ國會ニ云ハ茲ニ與ラズ

- 第一 外債ヲ募ル
- 第二 米納ヲ復ス
- 第三 勤儉ヲ本トス
- 第四 帛幣ヲ増ス
- 第五 直輸ヲ庶ム

右五件中第一第二第三第四皆ナ今日ノ急迫ニ若シ  
止ムラ得サルノ窮策ニ出ツト謂ハザルヲ得ス何トヤレ第  
一外債ヲ募ルハ我國ニ外債ヲ負フモノ未タ比較シテ多



額ナラスト雖氏償債ノ方法出ル所ヲ知ラズ今日尚ホ  
既ニ輸出入不平均シテ金銀濫出シ以テ窮乏ヲ致  
ス之ニ加フルニ新ニ外債ヲ負ヒ之ヲ辨償スルニ他物ナシ  
乃チ金銀ノ濫出ヲ増進ス專論不可視スルモ蓋シ  
唯辨償ノ術ニ苦シミ誤及ノ凶例ヲ恐ルノミ

第二米納ヲ復ス世人喋々シテ曰ク天下ニ大信ヲ失ス米  
納ハ旧慣ナリ地租改正ハ國人ノ忌ヒ所強テ之ヲ改メ當  
時米價四圓五拾錢内外ナリ然レニ地ヲ永世ニ與ヘテ地  
券ヲ致シ其地價ヲ定メ稅ハ地價百分ノ三ヲ收メ  
シム時ニ竹鎗猖獗ニ際シ  
恩詔其六分ニ  
ヲ減セラレ而シテ改稅ノ紛議徐々輟ルニ庶幾シ今  
日米價騰貴拾圓以上ニ及フ政府為メニ困窮大ス

輒テ米納ニシテ收ナルヲ算シテ當初人民不服ノ地  
租改正ヲ再變セント欲ス天下何人カ唇ヲ反サバ  
ラン國用足ラサレバ稅額ヲ増スモ可ナリ焉ソ米價  
ノ高低ヲ量リ低キハ金納高キハ米納理ノ出ツル所  
ヲ知ラスト是レ世論ナリ而シテ某ヲ以テ之ヲ視ル敢  
テ世論ニ拘泥セズ斷然行フベキハ之ヲ行フテ可ナリ  
然レ氏唯此米納ノ得失ハ僅ニ官民交互ノ經濟  
ニ係リ之ヲ單言スレバ畢竟一家中ノ利ヲ論スル  
ニ止マリ決シテ他ニ及フモノニ非ラス佞令金納ハ米  
納ニ變シ收額ハ出額ニ超ユルト雖氏今日金銀  
ノ外出ヲ防キ輸出入ノ平均ヲ得ルニ於テ此ニモ深  
係ヲ有セス

收納米ハ不殘輸出シ日本人民ハ米ヲ食フハ適當早ラ食ヘト云フハ格別

獨リ政府富



ヲ致スニ足ルノミ蓋シ此得失ハ内國中ノ偏重偏  
輕論ニ止マル者ナラン

第三勤儉ヲ本トスル要件ハ天下此議ヲ傳ヘテ誰カ感  
服セサル者アラシ然レモ二論ノ入ル是レ免ルベカラザル  
一所ナリ儉約ハ常ニ在リ今ニシテ改メテ節減スト云フ  
キハ從來者修濫費シタルモノヲ省キタルニ止マルナ  
ラニ否ラザレハ現今政府ノ事務ハ増スト雖モ減  
スルノ理ナシ今遽ニ之ヲ省ク嘗テ其省クベキモノヲ  
省カズシテ因循セル者ト見効ス一ナリ又ク其省ク  
ベキモノノ金額若干ト問ハ曰ク何百萬圓之ヲ以テ  
今日ノ財政ヲ維持シ他日ノ富強ヲ為スニ足ルカト  
疑フニテハ是事ハ則美事ナリト雖モ是レ全ク

政府上ノ御心合ニ止マリ為メニ彼我平均ヲ得テ全  
國ノ經濟直ニ回復スルト稱賛スルニ於テ甚ク究  
ス

第四帛幣ヲ増ス此件得失相半ス放テ事ヲ興ス中ハ  
増幣ヲ以テ國産ヲ増進シ輸出ヲ盛大ニスルノ益  
アリ退テ之ヲ憂フルキハ今日業已如此況ヤ増發  
ヲヤ是レ目今世人ノ通論ナルニ似タリ某派通論  
ヲ以テ或ハ得策ニ非スカト疑フト雖モ姑ク世論  
ニ從テ行フベカラザルモノトス

第五直輸ヲ廣ム此眼点ハ實ハ内外彼我ノ權衡ヲ正シ  
輸出入ノ平均ヲ得テ我全國ノ經濟ヲ挽回スルノ要  
ヲ得ルモノナラン然レモ單ニ直輸直輸トシテ揚言



之ニ授クルニ其直輸スルニ國生ノ物品ニ乏シキ中僅  
ニ唯其多少ノ便否ヲ異ニルニ決シテ輸出入ノ平  
均ヲ得テ金銀濫出ノ害ヲ脱セシモノト確視スバ  
カラズ然レモ其舉ハ固ヨリ服スルニ堪タリ唯物ヲ  
生セシル源ヲ濶テ直輸ラ感ニセント欲スル中ハ名義  
ナリト雖モ其實ハ迂ナルモ知ルベカラス

因テ今會社ヲ設立シテ其淵源ヲ擴キ其輸出ヲ増  
シ其輸入ヲ防カント欲ス是レ蓋シ官民ヲ論セズ都  
鄙ヲ問ハズ全國一般ノ不可不為ノ急務歟



